

教育研究大会について

1 三教研保健体育部 令和4年度の研究テーマ（案） 「運動する楽しさや喜びを味わい、自ら学びを深めていく体育学習」 （1年次）

*三教研保健部部のテーマをうけて、岡崎市体育部の研究テーマとして取り組む。

2 テーマ設定についての基本的な考え方

新学習指導要領における、小学校体育科の目標は、

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

と示されている。また、中学校の保健体育科の目標は、

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

と示されている。

つまり、体育科・保健体育科の目標は、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、課題の解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することである。

この目標を達成するためには、「主体的・対話的で深い学び」を実現させる学習過程が重要であるとされている。それは、教師から一方的に教え込まれるような受け身の学習ではなく、学習者である子供自身が、主体的となって能動的に学習する授業を展開することが必要となる。

体育科・保健体育科における、「主体的・対話的で深い学び」を実現させる学習過程に必要な授業とは、子供が自らの意思で活動する授業である。子供が自らの意思で活動するためには、教師が与えた課題や技能ポイントを基に活動させるのではなく、自分やチームの目標を達成するために必要な課題を、子供自身が見付け、課題の解決に向けて活動できるようにすることが大切である。

子供が「心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現する」ための資質・能力を育成することができるようになるには、小学校・中学校における体育・保健体育科の授業のなかで、子供自身が課題を見付け、その解決に向けて自らの意思で活動できる授業を繰り返し経験することが重要となる。仲間とともに運動に取り組むなかで、子供自身が課題を見付け、その解決方法を考え、試合や試技を行い試し、再び考え、解決に近づいていくことが、「主体的・対話的学び」となり、そしてそのことを繰り返すことが「深い学び」へとつながり、子供が「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現する」ための資質・能力を高めていくこととなる。この学習を具現化するために、小中学校ともに「課題解決型学習」のより一層の充実を図ることが必要だと考える。

この考えに基づき、「運動する楽しさや喜びを味わい、自ら学びを深めていく体育学習」を研究テーマとし、具体的実践を通して研究・検証を行う。

3 具体的な取組について

- ・子供が思い切り運動したいと思えるような教材の開発（ルールや場の設定）
- ・子供自身が課題を見付け、解決できるような学習展開を工夫する。
- ・子供が課題解決に向けて、主体的に学ぼうとする授業を繰り返し行う。

(1) 指導の重点

- ・魅力的な教材や環境作りによって運動したいと興味関心を抱かせる。
- ・子供自身が課題を見付け、解決に向けて「主体的・対話的」に活動することを大切にする。
- ・それぞれの運動のもつ楽しさや喜びを味わわせる。

(2) 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を実現するための学習指導

① 指導計画の工夫

- ・子供自身が、課題を見付け、解決することができる工夫する。
- ・子供の発達段階に応じた指導内容を明確にし、計画的かつ効果的な指導計画を工夫する。

② 子供の学びを支える指導の充実

- ・「主体的・対話的な」学習を重視した授業にするために、「課題解決型学習」のあり方を探る。
- ・子供の実態を考慮した教材の開発と、子供自身が課題を見付け、その課題を解決していくことができる教具を工夫する。
- ・子供が運動に取り組むなかで、子供自身が課題を見付ける場面から、個の追究や仲間とのかかわりのなかで課題を主体的に解決していくことができる学習過程を創造する。
- ・子供が見通しをもつことができ、課題の解決に向かいたくなるような発問の仕方を工夫する。
- ・一斉指導、グループ指導、個別学習などを工夫して、子供の一人一人の思いや考えを生かすための指導の充実を図る。

- ・ I C T機器を効果的に活用する。

《活用例》

- 主体的な学びとなるように、学ぶことに興味や関心をもち、学習活動に取り組む場面での活用。
- 対話的な学びとなるよう、撮影した写真や映像を手がかりに仲間と協働して活動を分析する場面での活用。
- 深い学びとなるよう、子供や仲間との課題を発見して解決策を考えていく場面での活用。

③ 評価について

- ・ 子供自身による「自己評価」「相互評価」などの評価活動を行い、評価の場面や方法、学習カードの充実、I C T機器の活用を図りながら、子供の主体的・対話的で深い学びにつなげる工夫をする。
- ・ 子供の評価活動を学習活動のなかに位置づけ、教師の指導と評価の一体化を図る。